



嵐山町長  
岩澤 勝

## 明けましておめでとう

### ございます

皆様にはお揃いで、新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は町を挙げて、町制施行50年の記念の年を祝うことができました。多くの記念事業も実施されたなかで、戦没者を追悼する「忠魂祠」の改修という大事業もありました。

この忠魂祠は、菅谷館跡地内に、昭和2年、時の在郷軍人の方々が中心となり、自らの労働奉仕で建立され、以来90年を超える風雪に耐えてきておりました。

町内外の戦争犠牲者の御霊を合祀するこの忠魂祠を、平和を願う礎として、多くの町民で守ってきたものであり、県内でも一番立派ともいわれているものです。しかし、老朽化と地震など天地の災害も受け、大改修の必要性が生じておりました。

「嵐山町の平和の礎」であり、平和を祈る平和施設として改修しようとの気運で「忠魂祠改修実行委員会」が設立され、多くの賛同者を得て、事業が実施されました。

これからの50年に向けて、更なる町の発展を期す決意の年のシンボルともなりました。

今年は明治維新150周年となります。先の大戦による戦後と共に、時代の大激変期とされています。

それ等の激変期にも増す変化の時代が、いまこの時、押し寄せています。

人口減少時代にも拘わらず情報革命は進み、人は余っていくとも叫ばれます。交通網・金融網・流通網をはじめ、変化のスピードは増し、社会構造、生活文化面に多くの影響を与えます。

「行政」も蚊帳の外に居ることは許されません。構造改革・行財政改革は避けられず、嵐山町でも時代に乗り遅れることのないよう意識改革が急がれます。

冬薔薇端然として崩れざる

(元内閣官房長官 藤波孝生)

冬の厳しさに耐えてひっそりと咲くバラの花の姿のように、身が引き締まります。

嵐山町の次のステージづくりも進めます。

- 日本一の教育のまちづくり
- 稼ぐ力の産業振興
- 定住促進のまちづくり
- 賑わい活力を発信する町
- 町の自慢の自然力アップ
- 安全安心笑顔のらんざん

近未来の嵐山づくりに確かな布石を打ち続けます。

平成の御世も移り行きます。戦後も73年、あの大戦も忘れ去られる程に、平和の時代が流れています。世界の中で、戦後とか、この永い平和の時とか話せるのは、日本以外ありません。世界では、テロ、殺戮が続きます。

いまこそ「平和」の大切さ・有難さを再確認する時でもあります。

御製（昭和46年）

戦をとどめえざりしくちおしさ

ななそぢになる今もなほおもふ

70歳になるその時、先の大戦への開戦を喰いとめることができなかった口惜しさへの悔恨の情なのでしょうか。

今年は嵐山町の新しい時代への幕開けの年、安全で安心でき、笑顔あふれる平和な年となり、町が限りなく発展しますようご祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



嵐山町議会 議長  
佐久間 孝光

## 町制施行50周年を

### 踏まえての

### 新たな町づくり元年

平成30年の新春をお健やかに迎え、このこととお慶び申し上げます。

昨年は、町制施行50周年を迎え、町主催による記念式典の開催はもとより、多くの町民、各種団体の方々が記念事業を実施し、共にその喜びを分かちあうことができました。また、今後の町づくりに対する意欲、展望をお示しいただき、我々議会議員にとりましても、心強い限りでした。

議会と致しまして、記念事業として「嵐山町・嵐山町議会の50年のあゆみ、小中学生からの10年後の嵐山町」として特集号を発行させていただきました。また、その特集号発行にあたり、元議員の先輩たちとの座談会を実施しそのお話の中で、熱意を持って知

恵を使い、賢い議会運営をなされたことにより、幾多の苦難を乗り越え、多くの偉業を成し遂げてこられたのかを知り、身の引き締まる思いでした。

更に、第3回定例会におきましては、土曜日と日曜日を利用して、議長を含む14人全議員が一般質問に立つという新たな取り組みもさせていただきました。10月の臨時会では、議員定数等検討特別委員会が設置され、集中的に議員定数や議員報酬等が議論されます。議員のなり手不足が叫ばれる中、議員の役割、使命を根本から再考する場となります。町民の皆さんにとりまして、一番身近な議員のあり方です。是非関心を持っていただき、しかるべき時には忌憚のないご意見をお寄

せたいと思います。11月に行われた第12回議会報告会の意見交換会の場では、「今後50年のまちづくり」をテーマにご意見を伺いました。若い世代からも多くの斬新的アイデアが出され、先輩世代からも激励や示唆に富んだご発言を数多く頂きました。我々議員が率先して、町に提言、苦言を申し上げていくことは勿論ですが、我々議員にも気づかないこと、知らないことが沢山あります。また、時代の変化を的確に捉えられていないこともあらうかと思えます。

人口減少という誰も経験のない時代に突入した今、今までの積み上げの議論では突破できない問題が山積しています。しかし、人としての原点に戻り、先ず現状に感謝し、世代や立場を超え、お互いがお互いを思いやる心があれば、必ず明るい未来につながる知恵を見出せるものと信じております。

本年が皆様にとりまして幸多き年となりますことをお祈り申し上げます。